

氏名	小 野 二三雄
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 1308 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和57年 9 月 30日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学 位 論 文 題 目	Levamisoleを用いた進行胃癌免疫化学療法の臨床結果
論 文 審 査 委 員	教授 寺本 滋 教授 木村郁郎 教授 小川勝士

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

Levamisole (LMS) は駆虫剤として欧米で用いられている化学薬品で、その構造式は、L-2, 3, 5, 6-tetrahydro-6-phenylimidazo-[2.1-b]thiazoleで分子量 240.75, 水に溶け易く、酸に安定な白色結晶状の粉末である。LMS は Renouxらにより免疫賦活作用、抗腫瘍作用があることが見出され、細胞性免疫能の低下したものに働き、その免疫能を正常に戻すように作用する特徴を有する。今回研究対象胃癌 222 例（対象群 136 例, LMS 群 84 例）の生存率と細胞性免疫能について検討し、更に背景因子に差のない stage III 例の対照群 32 例, LMS 群 32 例, 合計 64 例について検討した。その結果、胃癌全例においては、LMS 群は、対照群より有意差をもって生存率が高かった ($P < 0.05$)。更に stage III 例において、LMS 群の生存率は対照群のそれより高かった ($P < 0.05$)。その stage III 症例を治癒切除、非治癒切除の 2 群に分けて検討してみると、LMS は腫瘍が完全に摘出できた治癒切除例に生存率上昇効果をもたらした。癌腫の大きさ別にみると、癌腫長径が 3.9 cm 以下、また、8.0 cm 以上のものでは対照群と LMS 群の間に生存率の差がなく、4.0 ~ 7.9 cm の例に生存率上昇効果がみられた ($P < 0.05$)。壁深達度別でみると、LMS は se 例の生存率を高めた ($P < 0.05$)。リンパ節転移別では n_1 例、静脈侵襲別では n_0 例において対象群より LMS 群の生存率が高かった ($p < 0.05$)。癌占居部位別にみると癌が胃中部にあり、その組織型別が低分化型で、癌の周囲組織に対する浸潤増殖様式が中間の INF β において対照群に較べて LMS 群の生存率上昇傾向がみられた。免疫学的パラメーターとして末梢血リンパ球の PHA 幼若化率、T-cell 百分率、PPD 皮膚反応、末梢血リンパ球数を検討し、LMS は胃癌 stage I II 例には効果なく、細胞性免疫能の低下した進行胃癌 stage III, IV 例に特徴的に働き、速やかにそれらを賦活、正常化した。

論文審査の結果の要旨

本研究は胃癌 222 例を対象として生存率および細胞性免疫能を検討し、さらに、stage Ⅲ 症例 64 例について Levamisole を投与してその効果を検討した結果進行胃癌治療上重大な知見を得たものであり価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。